



市会 関 勝則
議員 せき かつ のり

「地域のチカラ」を、
提案・実践。

◎ 予算審査 ◎
<http://関勝則.com>

29年度 第1回市会定例会・局別審査

医療局関係予算を審査

平成27年4月に発足した医療局では、「市民の皆様が将来にわたって住み慣れた横浜で、安心・安全に暮らすことのできる最適な地域医療の提供」を理念として掲げ、様々な取組みを進めています。今後は、高齢化の急速な進行による2025年問題への対応を着実に進めていくための医療政策が重要となります。そのような中で、私は3月9日の局別審査で自民党を代表し、医療局の一般会計予算(約118億円)について質疑を行いましたので、ご報告いたします。

質問：29年度の予算案策定にあたり、取り組むべき課題としたことは何か。

答弁：2025年に向けた医療機能の確保が最大の課題と考える。そのため、病床の確保や在宅医療の充実等に向けた具体策の検討をしっかりと進め、次期「よこはま保健医療プラン」に反映させる必要がある。また、がん対策の充実、小児・周産期医療、災害時における医療的配慮を必要とする市民への支援といった課題についてもしっかりと対応していく。

質問：医療局が所管する市民病院、脳卒中・神経脊椎センター、みなと赤十字病院の運営にあたり、29年度病院事業会計予算の編成方針は。

答弁：①救急、がん、感染症などの政策的医療を中心に、安全で質の高い医療を提供すること、②地域医療の充実に向け、医療機関との連携や人材の育成に取り組むこと、③健全経営を持続する観点から、収入確保にも積極的に取り組むこととした。

質問：脳卒中・神経脊椎センターにおける救急車搬送の28年度受入実績と29年度の取組みは。

答弁：29年1月までの救急車による搬送件数は1287件で、これまで最も多かった前年度の同時期と比べても11.5%伸びており、年間の受入件数は過去最高を更新する見込み。現在は、頭部外傷やめまいの患者についても積極的に受け入れることとしており、29年度も救急搬送患者の受け入れを強化していく。

質問：次期よこはま保健医療プランの策定にあたり、はじめに2025年に向けた医療機能確保の課題は何か。

答弁：高齢化の進展を踏まえた医療機能と病床の確保、医療・介護の連携による在宅医療の充実、将来の医療提供体制を支える人材の確保・養成が重要な課題。

質問：つぎに、地域医療構想で明らかになった2025年の病床不足(7000床)解消に向けた考え方は。

答弁：医療機能ごとに病床を、方面別、あるいは行政区別にバランスよく配置することや、既存の医療機関の増床・転換や新たな医療機関の整備を誘導する手法を「病院整備方針」として次期保健医療プランに位置づけていく。

質問：築30年以上が経過した南部病院の再整備に向けた検討状況は。

答弁：整備後の施設規模等を考えると、現在の敷地での立替えは非常に難しい。患者の利便性や地域医療機関との連携も含めた診療圏に配慮し、移転に適した候補地を病院周辺に求めている。

質問：医療提供体制の整備だけでなく、医療施設や人材には限りがあることを市民により深く理解してもらうことも重要と考えるが、医療局の見解は。

答弁：限りある医療資源の中で、患者の状態に適切に対応した医療を持続的に提供していくためには、市民の医療機関の役割や機能に対する理解は欠かせない。そのため、かかりつけ医の一層の普及や救急電話相談(#7119)の活用、在宅医療への理解の促進に向け、広報や情報提供の充実にも努めていく。

* 2025年問題… 団塊の世代が2025年頃までに後期高齢者(75歳以上)に達することで社会保障費(介護・医療費)の急増が懸念される問題

* よこはま保健医療プラン… 保健医療分野を中心とした施策を総合的に体系づけた中期的な指針となる計画で現プランは平成29年度までの5年間を計画期間とする 【裏面へ続く】